



マンスリータイムズ(令和6年度)

みはま

9月号①

雅楽鑑賞会を開催しました

9月5日(木)、3人の外部講師による雅楽鑑賞会を中学部と高等部芸術音楽選択生の合同授業で行いました。講師の方は巫女さんの衣装で登場、雅楽についての話をとても分かりやすく丁寧に説明をしてくださいました。また、雅楽に使われる「箏(ひちりき)・笙(しょう)・竜笛(りゅうてき)」の楽器を実際に見せながら説明と共に楽器ごとの演奏がありました。それぞれの楽器に使われている楽譜についての説明の際には、初めて見る楽譜に興味を持ちながら発言する生徒の姿が見られました。笙を時折温めている様子が気になっていた生徒たちは、楽器説明で楽器を温める理由を知ることができ納得した様子などが見られました。また、それぞれの楽器の大きさや音について、興味を持って発言をする生徒も多くいました。3人での演奏は、『平調音取』『越天楽』を演奏してくださいました。3つの楽器が合わさると、音楽室の外まであふれるぐらいの大きな音でありながら、ゆったり心地よい音色で、生徒たちは初めて生で聴く雅楽に興味深く耳を澄ましていました。

授業の終わりには、音階についての説明を聞いたあと、『越天楽今様』をみんなで歌い授業を終えました。普段聴くことができない日本の伝統音楽に触れたことは、生徒にとって貴重な経験となりました。



みはま支援学校 学校運営協議会をご存じですか？

和歌山県では現在、県内ほぼすべての公立学校に学校運営協議会を設置し「地域とともにある学校」として地域との連携を深めています。学校と地域が育てたい子ども像等の目指す方向性を共有し、その実現に向けて協議を重ねています。子どもたちが、地域の人とともに地域を知り、いろいろな人とつながることで、ふるさとを愛する心を育んだり、自己肯定感が生まれたりしています。

みはま支援学校に通う子どもたちは県内の広い地域に住んでいますが、学校のある美浜町で友だちと出会い、日々の学校生活を送っています。学校としても美浜町とのつながりを大切に「地域で育つ みはまの子」をキャッチフレーズに取組を進めています。

学校が目指す地域と連携した取組に向けて、学校運営協議会で協議いただいたり、具体的な人とのつながりを生み出していったりしています。この取組を学校の中だけに留めることなく、児童生徒はもちろん、保護者や地域のみなさまに“もっと”知っていただけるよう、今後、本紙面で学校運営協議会の取組や委員について紹介していきます。

【令和6年度 みはま支援学校『学校運営協議会』委員】

北岡 大輔 委員 和歌山大学教育学部 講師 【会長】
大藤 祥子 委員 国立病院機構和歌山病院 療育指導室長
森脇 碌 委員 TETAU事業協同組合 理事・ディレクター
大沼 義記 委員 紀中障害者就業・生活支援センター
わーくねっと 就業支援ワーカー
瀬戸 敬二 委員 美浜町立松洋中学校長
山本 大 委員 本校 PTA 会長
中西 智也 委員 美浜町教育委員会教育課 社会教育主事
(美浜町中央公民館主事)
岡 潔 委員 本校校長 【副会長】

■参考資料：きのくにコミュニティスクールリーフレット(和歌山県教育委員会 HP より)
■みはま支援学校学校運営協議会の今までの取組は学校 HP からご覧いただけます。

委員さんはこんな人!その①

今回は本校校長の
岡 潔 委員を紹介します

Q:みはま支援学校を
自慢してください。

静かな環境で自分探しをしながら、ゆっくり学べる学校です。

Q:好きな井は何ですか？

カツ丼です。

Q:趣味は何ですか？

バードウォッチング
(野鳥の写真撮ること)

Q:地域のみなさんへメッセージをお願いします。



みはま支援学校の子どもたちのことをもっと、もっと知ってください。一緒にできることがあったら教えてください。